

## 6 ラッカセイの露地栽培試験

### 試験の目的

ラッカセイの栽培は主に千葉県等の暖地で栽培されているが、早生品種を使用することにより冷涼地でも栽培可能であることが実証されています。旭川市においても一部で作付けされていますが、そのほとんどがハウス栽培であり、規模の拡大や生産者の増加が難しい状況であるため、当地の露地栽培における安定生産技術の検討を行いました。

### 試験課題

課題名	①マルチ資材の検討試験	②育苗期間の検討試験
内容	マルチの有無及びマルチ資材の違いによる収量等に与える影響を確認し、マルチの有効性について検証します。	冷涼地では播種期の地温確保が難しいため移植栽培が慣行となっています。このため、当地に適する育苗期間を検討します。
試験区	<ul style="list-style-type: none"> <li>慣行区：マルチ被覆を行わない</li> <li>マルチ区：ダークグリーンマルチを被覆し、開花期に撤去</li> <li>生分解区：生分解性マルチ(透明)を被覆し、収穫期まで被覆 (ただし、本試験では雑草が繁茂したためマルチ区と同時に撤去)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>30日前区：定植の30日前に播種</li> <li>20日前区：定植の20日前に播種</li> <li>10日前区：定植の10日前に播種</li> </ul> ※全て生分解性マルチを使用し、左記の生分解区と同様に開花期に撤去しました。
供試品種	「郷の香」	
栽植密度等	床幅90cm(高畝), 2条植え(条間40cm×株間30cm), 350株/a, 移植栽培, 2反復	

### 栽培日程

	播種日	播種方法	定植日	調査開始日	調査終了日
マルチ資材試験	5月11日	9cmポット	5月30日	10月2日	11月12日
育苗期間試験	30日前区	5月1日	9cmポット	10月3日	11月12日
	20日前区	5月11日			
	10日前区	5月21日	育苗箱		

### 調査項目

- 育苗調査(両試験共通)：発芽率、苗質(定植時の苗の草丈など)
- 生育調査：開花日、草丈(定植時、定植後43日、収穫時)、分枝数
- 収穫調査：選別後(規格内、規格外)の収穫莢数及び収穫量

### 試験結果

#### (1) 育苗調査

各播種日における定植時の苗の草姿を図1に示しました。5/1播種と5/11播種は本葉が10cm以上展開しているのに対して、5/21播種では発芽前の状況となりました。また、5/1播種と5/11播種では根量にも違いが見られ、5/1播種はやや根巻きが進んでいる状況となりました。

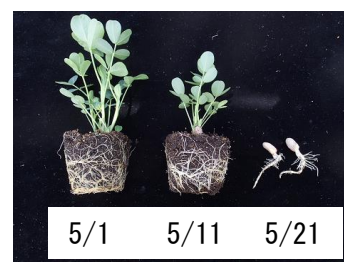


図1

## (2) マルチ資材の検討試験

### ア 生育調査結果 (図2)

全ての試験区が定植後 36 日前後で開花となり、試験区による差は見られませんでした。また、草丈はマルチ区が最も高くなり、慣行区との差は 20cm となりました。

### イ 収穫調査結果 (図3)

マルチ区が莢数及び収量共に最も多収となりました。また、規格別収量ではマルチ区の規格内収量が慣行区の 2 倍以上となりました。

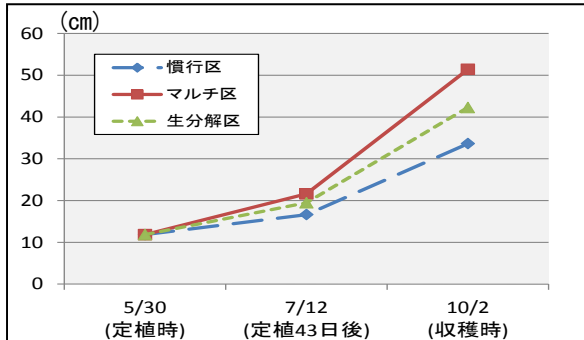


図2

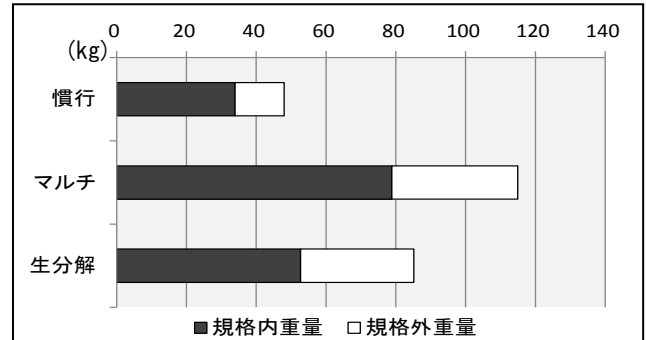


図3

## (3) 育苗期間の検討試験

### ア 生育調査結果 (図4)

育苗期間に関わらず播種後 55 日程度で開花となりました。また、10 日前区が定植後 43 日目には他区と同等の草丈まで生長し、以降は同様の傾向を示しました。

### イ 収穫調査結果 (図5)

規格別収量では 10 日前区が総収量で最も多収となりましたが、規格内収量では他区とほぼ同等の結果になりました。

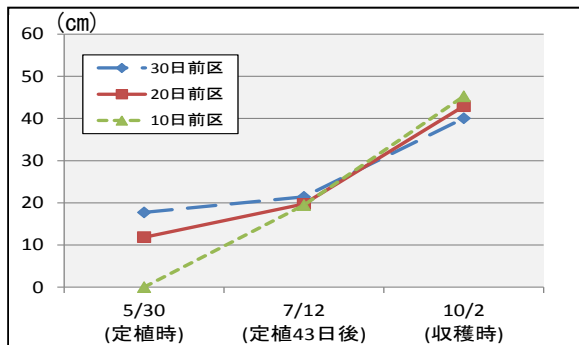


図4

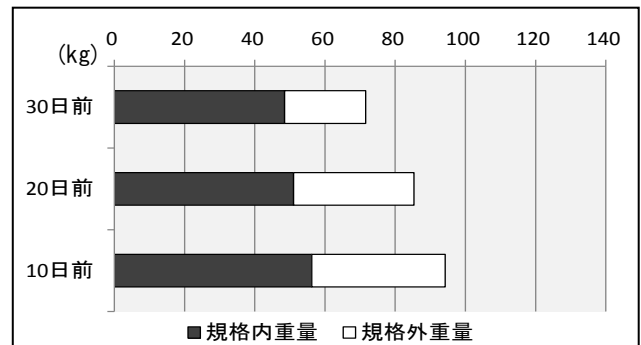


図5

## まとめ

### (1) マルチの有効性について

当地の露地条件においては、マルチ被覆が収量性に対して有効であることが確認できました。また、透明色マルチに比べ地温上昇効果が弱いダークグリーンマルチが初期生育に効果的であると考えられました。

### (2) 育苗期間について

育苗日数が短いほど多収傾向であるが、10 日間程度では定植に不適な苗質であることから、当地に適する育苗日数は 15 日前後 (本葉展開期) から 20 日程度と思われます。

### (3) 収穫期間について

11 月以降は規格内品が激減したことから、収穫終期は 10 月末頃までと思われます。